

## 授業科目 救急蘇生法演習

【担当教員名】 大滝 弘		対象学年	3	対象学科	情報
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	○		
【概要・一般目標：GI0】 一般市民が行うことができる応急救護の概念を理解し、CPR（心肺蘇生法）とAED（自動体外式除細動器）を組み合わせた応急救護法を実施できる。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>各疾患の救急対応法を理解できる。</li> <li>応急救護の概念や蘇生の連鎖、感染の予防について理解できる。</li> <li>気道、呼吸、循環の初期の評価について理解し、実施できる。</li> <li>気道の確保について理解し、実施できる。</li> <li>効果的なCPRを実施できる。</li> <li>病気やけがに応じた対処法を理解し、実施できる。</li> <li>AEDとその使用法を理解し、CPRと組み合わせて実施できる。</li> <li>救急救護法が必要な現場に遭遇した場合の対処法を説明できる。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション				
2	スポーツ現場での救急対応			1	講義
3	精神科救急とその対応			1	講義
4	内科的救急対応（1）			1	講義
5	内科的救急対応（2）			1	講義
6	応急救護法とは			2	演習
7	蘇生の連鎖と感染の予防			2	演習
8	気道、呼吸、循環の初期の評価			3	演習
9	気道の確保			4	演習
10	CPR			5	演習
11	病気やけがに応じた対処法			6	演習
12	AEDを用いた救急救護（1）			7	演習
13	AEDを用いた救急救護（2）			7	演習
14	知識の確認			8	演習
15	まとめ				演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		救急蘇生法の指針 市民用・解説編 改訂3版	日本救急医療財団心肺蘇生法委員会（監修）	へるす出版	2006・1,260円
その他の資料					
【評価方法】 出席状況、授業態度、筆記試験で総合的に評価する。			【履修上の留意点】 30名程度のグループ単位で行う。		